

東京教区パワーシフト・キャンペーン

ニュースレター No. 1

ご挨拶

本キャンペーンを通して、皆さんと共に学びながら歩いていきたいと願い、ニュースレターを発行してまいります。質問等も大歓迎です。(PSC事務局)

東京教区パワーシフト・キャンペーンとは？

聖公会の宣教の5指標の一つに、「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」とあります。これまで、さまざまな工夫のもと、それぞれの教区・教会で取り組みが行われてきています。

今回始まった「東京教区パワーシフト・キャンペーン」は、教会・礼拝堂で使用している電力を環境に与える負荷の少ない再生可能エネルギーに移行することを目指しています。しかし、それだけが目的ではありません。わたしたちが生活し、生かされているすべての環境について、クリスチャンとしてあらためて向き直すことが大切だと考えています。

電力を再生可能エネルギーにパワーシフトすることを考えよう！

来る5月30日に国際環境NGO FoE(Friend of the Earth Japan)の方を講師に、再生可能エネルギーへのパワーシフトおよびその背景などについて講演していただきます。(3月30日に各教会・礼拝堂の牧師・管理牧師、教会委員の皆さまに配信しました、「東京教区パワーシフト・キャンペーン」についてをご参照ください)

電力会社を変えることが難しい教会もあると思います。けれども、自然を、命を大切にするために何をすべきかをこのキャンペーンを通して学び、知ること、たとえばそれぞれの家庭の電力会社を見直すことだってできます。あらためてみなさんと学び考える機会にして参りましょう。

疑問・質問アレコレコーナー

5月30日の講演会への参加者のご報告が続々と届いています。合わせて、いくつかの教会から質問や意見がありました。その一部をご紹介します。

- Q1：ソーラー発電装置設置の工事など初期費用が必要？
 Q2：ガス利用の設備（含エアコン）もあり、全てを電化する必要がある？
 Q3：パワーシフトの歴史は浅いので電力供給の継続的安定性が心配。
 Q4：パワーシフトを検討する場合、電力会社をどう選んだらよいの？
 Q5：光熱費は現行の電力会社と比して、どう変わる？
 Q6：光熱関係の保守管理を外部委託している教会はどうなる？
 Q7：申込みは簡単！と言われても難しそう。サポートはある？
 Q8：電力会社を選び変えるキャンペーンだけではなく、エネルギーを出来るだけ消費しない・教会の消エネ行動（器具の更新、カーテンの遮光性や室温ロスの防止など）も併せて提唱してはどう？
 Q9：教区内ですでにパワーシフトをした教会はありますか？

◇ここでは上記の中でも質問数の多いq1について、簡単に説明します！◇

A1:太陽発電・蓄電装置を設置する必要はありません。太陽光や風力やバイオマスなどによって発電を行う地域にある電力会社の電力に切り替える（パワーシフトする）ことができるからです。送電網の管理運営はこれまで通り大手電力の送配電部門（東京では東京電力パワーグリッド株式会社）が家庭や事業所のメーターの管理まで行います。電気の物理的な流れは変わらないため工事や切り替えに伴う初期費用は発生しません。

.....

まずは5月30日の講演での学びから、疑問点などをクリアにしつつ、取り組みを進めていく計画です。講演に先立ち、5月の教会委員会等の機会に質問やご意見がありましたら、是非お寄せください。